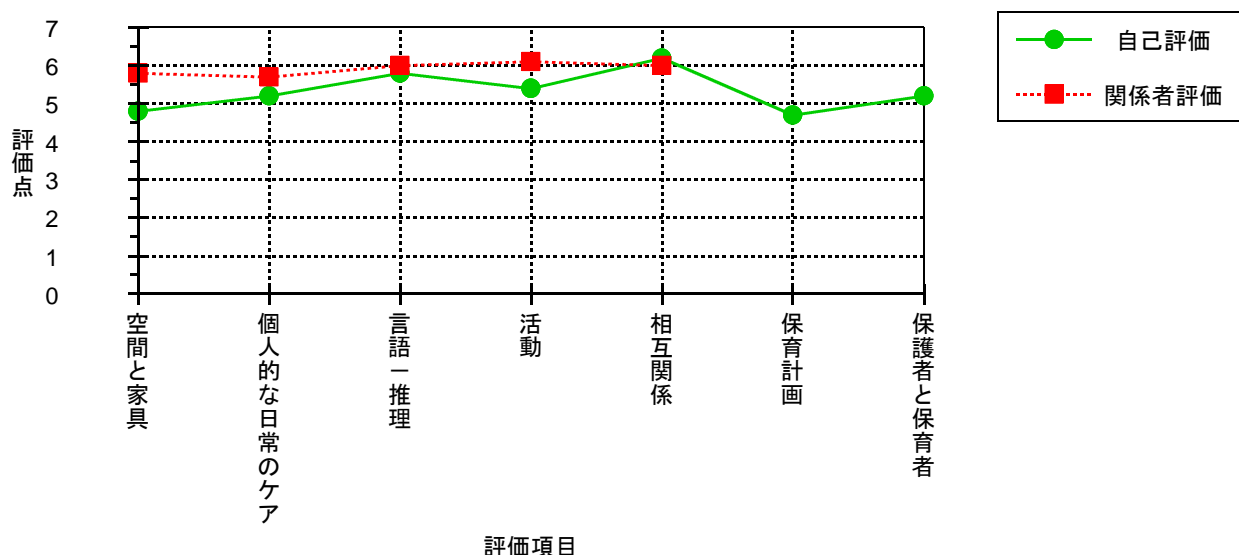


平成29年度自己評価・関係者評価（ECERSを用いた保育環境評価を通じて）

長野台幼稚園

1. 評価点数

評価平均	自己評価	関係者評価
空間と家具	4.8	5.8
個人的な日常のケア	5.2	5.7
言語－推理	5.8	6
活動	5.4	6.1
相互関係	6.2	6
保育計画	4.7	-
保護者と保育者	5.2	-



2. 省察
概 観

長野台幼稚園教職員及び関係者による保育環境評価を実施したところ、上記のような結果を得た。新園舎にも慣れ環境が少し充実されてきたと評価された。

I. 空間と家具

昨年度からの課題である、ホールの環境設定を少し進めたが、まだ十分ではないように思われる。隣接している和室との関係や活動の種類を考えたコーナーかをますます推し進める必要がある。

II. 個人的な日常のケア

年少担任が2° 替わるという課題の多い年度であったが、副園長が担当することで信頼は回復できた。乳児達への言葉の環境をもう少し丁寧に行う必要がある。

III. 言語－思考力

引き続き行事などの企画など自ら考える機会を多くとっていることでこども同士での会話や、想像-創造、推論など豊かな関係と育ちが見られる。

IV. 活動

園舎内外を問わず各所で活発に活動している。多様な表現も見られ感性も豊かである。ホール、素材コーナー、園庭遊具の配置などにもう一工夫必要である。

V. 相互関係

専門機関との情報共有についてはずいぶん充実してきていると思われる。地域との連携も平成30年度注に新たな機会を設ける予定である。

- ・以下自己評価のみ

VI. 保育計画

こどもの育ちを中心とした計画を進める一方で、会議時間の確保に困ることが多くあった。保育を支える打ち合わせの場の確保が急務である。

VII. 保護者と保育者

特別徴収に起因する保護者からの不満があり、残念ながら退園者もあった。継続して在園いただいている保護者から信頼を得るよう細やかな情報発信を行う必要がある。

3. 課題

職員全員で子ども達に接することの出来るよう、打ち合わせや保育計画など共有を進める必要がある、打ち合わせの場を細やかに設定する。

